

取扱説明書

お客様へ

- 施工は必ず専門業者へ依頼してください。
- 本取扱説明書は、大切に保管しておいてください。
- ご不明な点は、巻末に記載されている営業窓口へお問い合わせください。

施工業者様へ

- 施工前に本取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- 本取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

1.はじめにお読みください(正しく安全に使用いただくために)

本製品は、防火区画貫通部耐火措置工法部材です。それ以外の用途には使用しないでください。

■表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分しています。

警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う可能性があります。
注意	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う可能性があります。

■お使いになる人や他の人へ危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

警告	国土交通大臣認定書の仕様に基づき、正しく施工してください。 正しい施工を行わないと火災時に延焼のおそれがあります。 国土交通大臣認定書については、右記のQRを確認してください。	
注意	作業時は、作業用手袋などを着用してください。	

お願い	<p>※下記が守られなかった場合、製品の想定する機能・性能が発揮されない可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 区画貫通部では配管などが動かないように近傍でしっかりと固定してください。不十分な場合はパテにすぎ間が生じたり、パテが落下する可能性があります。耐火性能を発揮できません。 ● 貫通する壁がコンクリート造以外の場合は、壁の材質(ALC、耐火ボードなど)専用のφ5タッピングビスで完全に固定してください。また、下穴は壁の素材に適合したφ5タッピングビス用下穴径で設けてください。 ● 屋外で使用する場合は、紫外線、雨水などが当たらないように処置を施してください。 ● 区画の壁の材質によっては、パテに含まれる油分が染み出すおそれがありますので注意してください。 ● 架橋ポリエチレン管またはポリブテン管を使用する場合は、管と熱膨張性耐熱シールIPが直接触れないように被覆してください。
------------	---

2.セット明細(各部名称)



■セット内容

記号	部品名	数量
A	フタ金具	2
B	底板支持金具	2
C	底板アダプター	2
D	中トラス(M4×8L)ビス	4
E	中ナベ(M5×25L)タッピングビス	4
F	熱膨張性耐熱シールIP	裏面(表1)参照
G	取扱説明書	1
H	国土交通大臣認定品表示シール	1

<https://www.inaba-denko.com>

因幡電工カンパニー
因幡電機産業株式会社

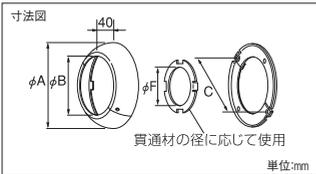
INABA DENKO
Webサイト



INABA DENKO
営業所一覧



3. 製品仕様



〈表1〉

型番	適合ボイド管 厚び径	貫通穴 仕上がり径 (mm)	寸法 (mm)				熱膨張性耐熱シールIP	
			φA	φB	C	φF	O.5L	O.3L
IRC-75CK	75	82	131	82	114	45	1	1
IRC-100CK	100	110	156	107	139	65	2	—
IRC-125CK	125	135	182	133	165	85	—	4
IRC-150CK	150	160	207	158	190	105	3	—

国土交通大臣認定適用範囲概要

〈表2〉 (単位:mm)

用途 および 使用可能最大配管 配線サイズ	管外径	保温材厚
金質管(銅管、銅管、ステンレス鋼管)、およびそれらに被覆したもの	管外径	53.98
	保温材厚	20
ポリエチレン管、架橋ポリエチレン管、ポリブテン管、およびそれらに被覆したもの	管外径	48
	保温材厚	20
硬質塩化ビニル管、金属強化架橋ポリエチレン管、およびそれらに被覆したもの	管外径	44
	保温材厚	20
可とう塩化ビニル管、およびそれらに被覆したもの	管外径	34.1
	保温材厚	6
さや管	管外径	42
内管 ポリエチレン管 架橋ポリエチレン管 ポリブテン管	管外径	34
ケーブル	CV(CVT)600V 100mm×3C※	
占積率	57.3%以下 上記配管、ケーブル混設の場合を含む	

●被覆とは—

ポリエチレンフォーム、難燃ポリオレフィンフォーム、ポリスチレンフォーム、ウレタンフォーム、ニトリルゴムフォーム、スチレンゴムフォーム、クロロプレンゴムフォーム、グラスウール、ロックウールなどの保温材を指します。

●ケーブルとは—

※…例として、CV(CVT)600V、100mm²×3Cが挙げられています。ケーブル外径40mm以下、導体総断面積300mm²以下であれば3C以上の多線を含みます。

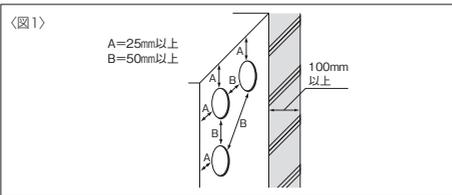
●中空壁への適用—

国土交通省認定書 6留意事項 末尾に記載の仕様通りに施工してください。「壁厚115mm以上、強化石膏ボード12.5mm以上2枚重張り」の中空壁に対して適用範囲となります。

(注)●厚さ100mm以上の壁(中空壁の場合は115mm以上)に適用されます。

- ここで言う占積率は、貫通材断面積の貫通穴断面積に対する占有率です。
- 選定の際には、占積率を満たし、金具最小内径に収納できることを確認してください。

4. 防火区画貫通部の設営



〈表2〉および〈図1〉を参考に、ボイド管等で貫通穴を設けます。

※耐火キャップCは厚さ100mm以上の壁に適用されます。

※耐火キャップCのフタは、左右からスライドさせて組み付ける構造のため、作業スペースとして5~10mm程度の余裕が必要です。他の貫通口が隣接する場合や、周囲に障害物がある場合は、とくに注意してください。

※φCについては、製品ごとの貫通穴仕上がり径を参照してください。

5. 施工手順

1. 底板支持金具の取り付け

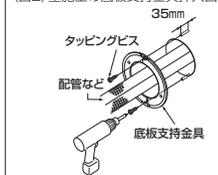
〈図2〉のように、底板支持金具を組み付けて、必ず付属のタッピングビスなどでビス穴4ヶ所の内の対角2ヶ所を固定してください。貫通材が底板アダプターの内径より小さい場合は、熱膨張性耐熱シールIPの脱落防止のため、底板アダプターを挿入してください。(〈図3〉参照)

※底板アダプターのツメの向きは、開口内側向きになります。

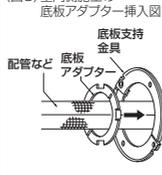
※ビス穴は4ヶ所ありますが、対角2ヶ所留めで十分です。ただし、強度の弱い壁に取り付ける場合は、4ヶ所留めしてください。

※アンカーなどで固定する場合は、底板支持金具の内径(5.5mm)に適合するものをお使いください。

〈図2〉壁施工の底板支持金具挿入図



〈図3〉壁両側施工の底板アダプター挿入図

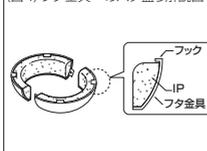


2. フタ金具のバテ盛り

耐火キャップCのフタ金具に、あらかじめ熱膨張性耐熱シールIPを〈図4〉のように充て込んでおきます。

※フタ金具を底板支持金具に取り付けるフックの周りには、熱膨張性耐熱シールIPを盛らないうちに施工してください。(〈図4〉断面図参照)。

〈図4〉フタ金具へのバテ盛り解説図

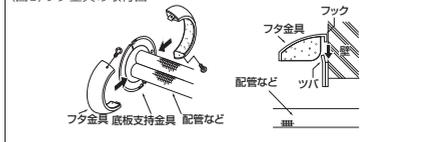


3. フタ金具の取り付け

熱膨張性耐熱シールIPをあらかじめ充て込んでおいたフタ金具を、底板支持金具のツバに、フタ金具のフックが掛かるように左右からはさみ込んで取り付け、ビスで固定します。(〈図5〉参照)。

※底板支持金具のヒンジ部には、フタ金具のフックが掛けられません。ヒンジ部を避けて取り付けてください。

〈図5〉フタ金具の取付図



4. 仕上げ

フタ金具と貫通材のすき間が埋まるように熱膨張性耐熱シールIPを充て込んでください(〈図6〉参照)。反対側も同様に施工して完成です。

※基本的に、耐火キャップCに同梱されている熱膨張性耐熱シールIPは、全て充て込んでください。

〈図6〉仕上げ図

